

ふるさと教育 取組事例

| | | | |
|-----|------------|---|--------------------------|
| 学校名 | 奥出雲町立亀嵩小学校 | | |
| 学年 | 主な教科等 | 主に関わる単元名 | 活用した教育資源 (ひと・もの・こと) |
| 3・4 | 総合 | 守ろう つなごう 私たちの亀嵩 | 仁多郡家跡 岩屋古墳・常楽寺古墳・大領神社 |
| ねらい | | 自分たちの暮らす町へ見学に出かけることで、建物や遺跡などのふるさとの宝に関心をもつ。地域の人との関わりを通して、ふるさとの良さを知る。 | |

1 取組の概要

高田地区の宝を見つけたいと考えた児童の思いから、郡家跡を中心とした高田の遺跡を見学し、高田地区の歴史や、遺跡を守ろうとする人の努力や願いを誇りに思う気持ちを育てたいと考えた。



仁多郡家跡

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

(ふるさとへの愛着や誇り，貢献意欲の視点から)



高田地区は、奈良時代に仁多郡家が置かれた三處郷（今の仁多郡）の中心地と考えられている。そのことを証明するかのよう、郡家の長である「大領」の名を冠した大領神社や、郡家の大領につながる一族に関わるものと考えられる奥出雲最大の古墳、岩屋古墳など、郡家ゆかりの遺跡や建造物が多く残っている。

仁多郡の中心地として栄えた場所であることを示すふるさと高田の「宝」の見学を通して、ふるさとを誇りに思う気持ちを育むとともに、高田の歴史を後世に伝えようと、遺跡の保存や歴史の伝承に努める地域の方々の努力や願いにふれ、今後は自分たちもふるさとの「宝」を守り伝えていくという思いをもたせたいと考えた。

(学力育成の視点から)

学んだことや自分たちの願いを、1人1台端末を活用しプレゼンテーションにまとめ、全校児童に向けて、そして地域の高齢者サロン「カメさんサロン」の方々に発表する場を設定しようと考えた。発表に向けてプレゼンテーションを共同編集する活動を通して、「はじめ・なか・おわり」を意識した文章構成でまとめることや、全体像を明らかにして役割分担して準備を行うことなど、国語科やキャリア教育につながるコミュニケーション能力と関連させて指導することを意識した。また、プレゼンテーションにまとめたことを全校児童や地域の高齢者サロン「カメさんサロン」の方々に発表することで、聞き手を意識した声の大きさや速さ、間の取り方などを工夫するよう働きかけた。

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

(ふるさとへの愛着や誇り，貢献意欲の視点から)

自分たちが暮らす地域（高田地域）が仁多郡の中心地であったということを、この学習を通して初めて知ったという子供が大半であった。郡家があったということ自体が、ふるさとを誇りに思う気持ちをさらに深めることにつながったと感じた。また、高田の遺跡や建物がきれいに整備されて



いることや、道路の近くに案内の看板が立っていること、郡家との関わりについてまとめた資料が看板になっていることなどに気付き、郡家に関わる遺跡や建物は、高田の人達が大切に受け継いできた「宝」であるという気付きの深まりにつながった。さらに、郡家跡は素晴らしい亀嵩の「宝」である一方、高田の歴史について詳しく語るができる人が少なくなっているという課題についても考え、自分たちが高田の歴史を語れる人でありたいという思いをもつことにつながった。



(学力育成の視点から)

「はじめ・なか・おわり」を意識したプレゼンテーションを作成することができた。「高齢の方にも伝わるように」という相手意識をもつことで、文字や写真を大きく見せたり、話す速さをゆっくりしたりするなど、工夫して準備・練習に取り組んだ。披露する当日も、相手意識をもって発表することができた。また、ICT機器を活用する力も大きく向上した。

4 課題や今後の展望

統合が2年後に迫っているが、地域の中の小さな学校が、地域の中で大きな役割を果たしていくことには変わりはない。地域とのつながりを精選していかなければならないという課題もあるが、地域に支えられ、そして地域のために進んで行動していくことを、今後もふるさと教育の中で大切にしていきたい。